

タウンミーティング議事録

1 日時

令和 7 年 2 月 1 日（土）午前 1 0 時から 1 2 時 2 0 分まで

2 場所

流山市役所

3 出席者

（ 1 ） 特別職等

井崎市長、石原副市長、吉田教育長

（ 2 ） 部局長等

須郷総合政策部長、吉野市民生活部長、伊原健康福祉部長、
竹中子ども家庭部長、深津経済振興部長、伊原環境部長、
梶まちづくり推進部長、染谷土木部長、
南学校教育部長、石川生涯学習部長

（ 3 ） 事務局

司会 影山秘書広報課長
秘書広報課職員

4 来場者数

2 1 名（お子様同席 3 名）

5 質疑回答

裏面のとおり

Q 市民

まず、このような機会を設けていただいたこと誠にありがとうございます。

私が流山市に引っ越してきたのが2019年で約6年前です。当時東京から引っ越してきました。5、6年前でさえ、流山市に引っ越すと言ったときに、周りの人からは、「どこそこ」みたいな感じのリアクションがあったんですけども、今はもうそういった人たちにも誇れるようなまちになって、その辺に関しましては本当に皆様のご功績というか、皆様のご尽力かなというところも非常に感じております。

質問が大きく2つあります。中期的な質問とあと長期的な質問というところで2つに分けます。

まず中期的なところでいきますと、今もう流山おおたかの森駅の周りは開発もほぼほぼ済んだのかなというところがありますが、今後、流山市の中で開発していこう、この辺に力を入れていくというところを具体的に、もし、おありでしたらその辺を質問させていただきたいなというところが1点目です。

2点目は、長期的なところですけども、現況、確かに子育て世代の人口も増えているかなというところを非常に感じています。

ただ、20年後30年後この街どうなるんだろうというのは若干不安に思っています。今日小さいお子さんたちも来ていらっしゃいますけど、その子たちが20年後30年後、本当にこのまちに住んでくれるのか、いわゆる多摩ニュータウンみたいなそういったところ、現在では、再開発で活性化しているというようなニュースも聞いていますけども、少し昔だと老朽化して、もう本当に、老人の人たちしか残っていないというような問題もありますと。まさにこの流山という街が今すごいマンションも建っていてというところもあるんですけども、20年30年後にそういった老人しか残らないような街になるんじゃないかというところは若干不安に思っていますので、そういう20年30年後も今若い人たちがちゃんとこの街に住み続けてくれるようなためにどういう施策を考えているのかというところを、合計2つ質問させていただきたいなと思います。

A 市長

このご質問は多くの市民からいただきます。

末永く住むために大丈夫なのか、或いは、今後も流山に住み続けられるのかなという関心が高いのかと思います。

中期的なこれからの流山市の施策、開発についてですが、ご承知のようにTX沿線はほぼ終わりました。現在、流山市が取り組んでいるのは、江戸川台駅東口、ここが市の開発としては面積的には今まででも最大の規模となります。まず、東口駅前商店街通りのリニューアルになります。ウォークブルなといいますか、公園的な雰囲気にしていくということで、令和8年度の完成予定で動いています。

それから隣接地にジェット口跡地といってジェット口の社宅が5、6年前までありまして、そこを流山市が取得をして、現在その開発を進めています。このジェット口跡地の中身については、ジェット口跡地活用に係る基本構想市民検討会で昨年1年間揉んでいただいて、そして市民からの提案、それから行政としてどうしても入れなければいけないもの、この辺を調整して、もう案が決まり、それに向かってこれから設計に入っていきます。江戸川台の住宅地は、とても人気のある住宅地ですが、60年前にできたエリアなので、商店街、それからジェット口の周辺も、少し古びてきていて、新しい方々が引っ越しされてこれらいているんですけども、その方々のニーズには少し合っていないというところもあるので、新旧の方々が集えて、そして、この地域に住んでいることで絆を深め、また住んでいることに誇りを持てるような施設を入れていこうということで、色々ご提案をいただいてその実現に向けて動いています。それは令和9年度末に完成予定で進んでいます。

それからその最後に、令和10年度に駅前広場を大幅に改修します。この駅前広場は今から約24年前にできた広場ですけども、ロータリーのところでバスが停まっていると、乗用車が通れないとか、逆に乗用車が停まっているとバスが通れないという、どうしてこういうことになったのか、私は残念ながら存じ上げませんが、非常に使いにくい、交通のロータリーとしては、若干問題のある案件、やや欠陥のある広場となっています。これをきちんと改修しようということで、大幅に見直しをして、それからイベントというか人が溜まれるような、にぎやかな活気を醸し出すエリアにしていこうということで、駅前広場そ

れから商店街、ジェトロ、この３点セットで今進めています。

それから、初石駅ですけども、初石駅の西口というのは、今橋上駅
化をしていて、今年の１２月末に竣工予定です。ただし、駅前広場が
混沌としていて、非常に危険なんです。ここについて、駅前広場とそ
の周辺隣接地の商いが行われているエリア、それから主要の道路あた
りも、大半を東武鉄道が持っています。東京の西側のほうの鉄道会社
ですと、おそらくご自分で色々開発をされていくと思うのですが、そ
うではないので、流山市と協議をしながら、そして流山市が大きなお
金を出すことにならないように、安全な広場、それからまちのリニュー
ーアルに繋がるようにしっかりと東武鉄道と協議しているところです。

それから、南流山駅周辺というのは、武蔵野線ができた半世紀前に
区画整理を行いました。その当時の区画整理というのは、今の区画整
理とは、基準が異なり、少し道路幅が狭いとか歩道を設けなければな
らないところの歩道幅が狭かったり、或いはこの基盤整備の上にでき
るまちの景観とか、まちのデザインということについては、その当時、
そういう考え方がなかったので、基盤整備だけことができました。

しかし、その基盤整備の上にできた建物や土地の使い方について、
少しアップデートしないといけない状況になってきているのと、実際
に半世紀経っていますので、改築をしていきたい建物も大分増えてき
ています。そこで昨年の２月に流山市の方で、この南流山駅周辺地域
について、民間主導で、まちを綺麗にしていく方針を立てて、例えば
高層化するとき、１、２階は商業・業務系サービスにしてください、
特に１階については、シースルーで中が見えるような形にして、少し
セットバックして緑化をすとか、そういったものを細かく決めて、
発表しています。その基準に則ってやっていただいた度合いによって、
来年度から、４年間、令和１０年度までに完成した建物について、奨
励金を出すということで、現在、複数の物件が動き始めています。そ
ういったことで、民間主導で流山市が綺麗な、そして活気のあるまち
にできるようなガイドラインに誘導をして、南流山もこれから少しず
つ変わっていくというふうに考えます。

個人的にはおおたかの森はもうナショナルチェーンでないと払えな
い家賃になってしまって、皆さんご存じのようなお店がたくさん入っ
ていますけれど、南流山はもう少し、創業しよう起業しようという方

もオープンできるような、流山の人が流山で面白いことをやる場所になっていただけると大変嬉しいなというふうに思っています。

それから白みりん発祥の地、流山本町がございます。この地域では、2010年から、古民家を再生して、万華鏡ギャラリーとかカフェとか、それから最近はプロテインカフェとか、この3月には、アフリカのコーヒーを輸入して焙煎するコーヒー屋さんができるというようなことで、若い方々が、そこで起業するためにいろいろ調整をいただいています。こういった古民家再生、貸す側のタイミングと借りた側のタイミングがありますので、毎年数店ずつ古民家再生を進めて、同じようなところが松戸や柏、我孫子には、旧水戸街道沿いにあったんですが、残念ながら全部道路拡幅でなくなりました。この近隣では流山だけになりましたので、ぜひここにそういったタイムスリップしたような空間が形成されるように誘導していこうと考えています。

それから3月29日に白みりんミュージアムというのが、流山キックマン工場の敷地の奥の方にオープンいたします。この辺もあわせて流山本町の活性化に繋がればということで布石を打ってきているところです。

長期的な視点ですが、今、流山市の人口構成は、30代40代の方が一番多いです。転入者が一番多いのは20代後半と30代前半です。その次に多いのが、0から9歳までの子どもたちで、団塊の世代よりも多くなっています。これは全国的に非常に希少な状況になっていますが、そうすると30代40代が多くて、ご質問の20年30年後、まだその方たちは、30年後の年金ももっと先延ばしになって、皆さん働いていることになると思うんですが、そうすると今の人口構成が20年から30年年齢を動かしますと、おそらくほとんどの方が、現役ということで、まだまだ高齢者ばかりのまちになるということではないと思います。ただ、40年、50年になりますと、もう高齢化になってきますけれども、ただ1つ流山市が多摩ニュータウンと違うのは、多摩ニュータウンでは最初、賃貸住宅が大量に建てられました。

そして、そこで生活をして、お金が貯まった人は、多摩ニュータウンも含めて、団地からどんどん転出され、マンションや戸建てを買われて移っていきました。そうすると、最初に移った方達が歳を重ねていって、高齢化団地になるわけです。流山市の場合は、マンションに

移ってこられた方が、家族構成の変化で、流山市内の新築、ないしは中古物件に移っている方が大変多い状況です。その部分について、さらに若い方が、そのマンションに移ってこられるということで、ある意味市内でうまく人口スパイラルができています。これから10年から15年後ぐらいに、流山市は相続物件のピークが来ます。団塊の世代が77歳から79歳ですから、15年ぐらいすると相続物件になってくる。その時にやっぱり流山市民が流山市内に住み続けたいと思っていただいて、ライフスタイルに合わせて、移り住むということと、市外から流山市に移りたいと思っている方が、全国に情報発信をして、一定の数字を獲得できていれば、流山市はこの相続物件のピークのときも、空き家にはならず、地域コミュニティと地域経済は維持できるというふうに考えています。ただ50年先になると、もう日本の人口はどうなっているかわかりませんので、そこまでは申し上げられませんが、今流山市内では、人口のスパイラルが市内でうまく起こっている、多摩ニュータウンのようなことはないだろうと思います。

それから長くなってしまうんですが、もう1つの要素として、TXの東京駅延伸というのが、昨年末に期成同盟ができました。これは、東京駅延伸の計画は今までもあり、それを促進する協議会がTX沿線の自治体であったんですが、今回違うのは、東京都が計画している臨海地域地下鉄との接続化、そのことを含めて動き出しました。これは東京駅の八重洲口を駅共有化して、新銀座新築地そして国際展示場の前まで行くという計画なんです。これと接続ができるようにということで、今、TX沿線の自治体、それから国会議員や県議会、それから各沿線の市議会にもお願いをしていこうとしているところで、何とかこれが実現できると、40年ぐらいまでは、人が出入りできるまちになっていくというふうに思います。

Q 市民

転入して、25年目になります。よろしくお願いします。

流山市のホームページ見て、どういうコンセプトで、今に至るのかなというのを少し勉強してきました。コンセプトの中に、森と暮らすというキーワードでいくつかコンセプトがあって、上質な住環境がもたらす、子育てや教育に適した環境というのが1つありました。その

コンセプトにのっとして、子育ては、様々な施策で、全国の住みたいまちランキング上位ということでこれは井崎市長初めここにいる幹部、市役所のメンバーが努力をしての結果だなと思いました。非常に感謝しています。ありがとうございます。

一方で、私も年をとってききましたので、シルバーからみたら住みやすいまちなのかといったところを今日、ご提案も含めてお話させていただきます。

最初に、目指す姿ということで子育てからシルバーまで全国の住みたいまちランキング上位を目指しませんかということです。森とプラスなので、森に返すまでというところでお話したいと思います。少しブレイクダウンすると、私の知人で、まず困りごとからお話します。先ほどの商店街がもう過疎化して、閉店して寂しくなるというところが江戸川台駅東口、まさにそうなんです、その中でも、中小企業もちろんあると思いますが、人材不足、現場で働く人もそうなんです、物流センターが建っていますので、若い人がどうしてもそっちに流れてしまうということで、人材不足の中で、私の知り合いのクリーニング店の例ですが、ここは給与がまだ現金支給。社長夫人が銀行に行って現金をおろしてきて数えて、封筒に入れると。私が学生時代の頃のやり方で、でもそれが仕事の1つだと思っているんです。なので、仕事の伝票もすべて、手で書いてもらったものを手入力しているといったような、まだ人海戦術が残っているというところで、給与を上げようとかそういう施策になっていますけど非常に苦しいと思います。何もしないで給料を上げられるわけじゃないので、自然に考えるとつぶれちゃうだろうというところがあります。手書きの話を言いましたけど、ITというほどじゃないんですけど今で言うエクセルとかそういうのを使いこなせれば、解決するある程度のレベルにいくと思っています。そこが困りごとです。

困りごとだけ言うつもりはないんですけど対策案として、この辺の地域は、先ほどジェトロとかおっしゃっていましたが、ジェトロの知人もいます。あと、日銀の方とか大学教授の方とか、大手企業で、それなりにIT教育を受けて実践した方がいっぱいいると思います。エクセルの高度なことだとあれだと思うんですけど、それなりのものであれば、その方たちを、シルバーは65歳が定年で、今、多数いる

と思うんですけど、そこでうまくマッチングしてあげれば、潤うのかなと。シルバーも、地元に貢献したいという気持ちの方がたくさんいると思いますので、シルバーを眠らせない、もしくは流山市から流出させないと言ったところで、うまくマッチングして、できないかなと考えています。

課題は給与面だと思いますので、そこを初めは、支払えるまで市が助成すればというふうに考えています。

A 市長

まず、流山市では、公民館などでやさしいパソコン教室などを開催しており、多くの高齢者がそこに参加をされています。それから民間でもたくさんの教室が、この公民館やいろんなところを使ってやっていらっしやって、中には、議員さんもいらっしやるんですが、もう本当に大盛況だというふうに聞いています。

あと、商工会議所もそういったセミナーをやっていらっしやいますので、今おっしゃった事業者は、多くの場合は、商工会議所の会員でいらっしやって、シルバーのお1人かお2人で、或いはご夫婦でなさっている方が多いかと思いますが、実際にはその商工会議所や市の方からのお知らせで、色々な教室は行われているんですね。

ですから、これに加えて新たに講師とその方のマッチングというのは、検討が必要かなと。要するにダブルになることと、それから、すでにいろいろな教室が行われているところに行かない方が、何かのご事情があるかと思いますが、今度、個別にレッスンを受けるとかその教室で教えていただくということ、教室はどこでもいいんですが、そのノウハウを教えていただくということについて、マッチングがあるからやれというよりは、もうすでにたくさんあるので、そこへ参加していただけない方が、そういった個別のものに応答するかどうか、希望されるかどうかというのは、もうちょっと現場から声を聞いて確認しないと、あまり効果がない恐れもありますので、そこは今日ご指摘の点は、現場からの状況を確認したいと思います。

Q 市民

5つほどありまして、まず簡単な3つから言いますと、手続きをも

うちちょっとオンライン化とかデジタル化して欲しいというところで、具体的なところで言うと、例えば、自立支援の申請をしている人がいて、更新するのに毎年、直接伺わなきゃいけないと聞いていまして、結局、手続き内容の書類だけで判断するならオンライン化できないのかなと思いました。あと、子どもの医療受給券、マイナンバーでせっかく楽になってきたにも関わらず紙のやつは出してくださいと別にやると不便かなと思いました。

あと、手続きの問い合わせで、不備がありますとか、何を確認してくださいぐらいだったら、電話でされてもなかなか工作中受けづらいところもあるので、ぜひチャットとかメールでも良いので、できると簡単かなと思ったのが1つ目です。

2つ目は、図書館で電子書籍化をどんどん進めてくださって助かっているんですが、もっと拡充して欲しくて、やっぱり本だと、借りるまでにどうしても数週間待つとかもったいないと思いますので、ぜひ、その辺をお願いしたいです。

3つ目ですが、市民税を払っていると思うんですけど、どういう恩恵にあるかとかをもうちょっと可視化できると、納得して払ってもいいかなと思えるのでぜひオープンな発信をしていただきたいです。

4つ目ですが、疑問に思っていることがありまして、松ヶ丘の自治会の会計を1年間ぐらいやっていたんですが、防災の対策でその自治会の建て替えなどをするのに、積み立てて、300万ぐらいでやってきたんですが、実際災害時に、そこが避難所になるのかとかそういうのが、個別最適としてはいいのかもしれないんですけど、何か市として本当にそういう防災の対策でいいのかというのは、備蓄とかもしているんですけど、周りの企業とか小学校でも備蓄はしているので二重にかぶっていたりしていないかなという疑問です。

最後ですが、一番これぜひやりたいなと思っていて、公立中学校の魅力をぜひ上げたくて、やはり子育てはかなり良くなってきて、働く側も楽になってきていますと。ただ、やっぱり公立中学校に行かせたいかというと、やっぱりあんまり行きたいと思えなくて、近くの私立中学だったり、東葛飾中学だったり、いいところが見えてきているので、そういうところに行けるなら行きたいですと。ぜひ麴町中学校とか最近の東京では、公立でもいい教育できていますので、ぜひ近くの中学校

も、何か特色を持って行きたいと思えるようになるとよりいいのかなと思いました。

A 市長

市民税についてですけれども、先ほどの公式LINEアカウントでも送られてきますけれども、広報ながれやまで年2回、税の使い方というのが送られてきます。比較的面白くて幅広い市民の方が注目されているのは、4月1日の広報で、通常の1日号とは別に、その年度にやる仕事、今年これをやりますという事業特集号があるんですが、それは12ページでの1冊になっています。そこには、写真と金額と、それから概要が書いてありますので、例えば、ご自分の地域の近くでどんなことがあるか、自分のライフステージでどういうサービスが始まるのか、或いは、すでにあるものがどれだけ拡充されるのか、そういったものが予算とともに載っていますので、ぜひ、広報ながれやまの4月1日事業特集号をご覧くださいいただければと思います。

A 生涯学習部長

図書館をご利用いただきましてありがとうございます。

ご指摘の電子図書に関しましては、昨年12月に120冊ほど増加しましたが、引き続き、拡充を図ってまいります。また、視覚に障害のある方等が図書館を利用しやすくなるよう、オーディオブック（聞く図書）も扱っておりますので、ぜひご利用いただければと思います。

Q 市民

ぜひ、最新のものをお願いします。古い書籍が多いので。

A 健康福祉部長

障害福祉の関連で、自立支援の手続きをはじめオンライン化できないかということなんですけれども、確かにおっしゃる通り、申請書と、それから現状を証明するような書類等を確認させていただくの窓口に越しいただくことが非常に多いのは確かです。ご負担の軽減については、考えていく必要があると思っておりますので、まず、障害福祉施策のいろいろなものの手続きの簡素化できるものと、それからオ

ンライン等の負担軽減が図れるものというのを、よく把握をした上で、今後考えていきたいと思います。

A 子ども家庭部長

子ども医療費助成の関係ですけれども、おっしゃる通り、現在まだ紙の受給券です。それぞれ申請を受けて、紙の受給券を出しているというのが現状です。そもそも申請自体もまだオンライン化してないというような状況がありまして、子ども子育て施策でいうと、児童手当の認定請求とかの一部については、オンラインでできるようになっているんですけれども、まだこれも正直あまり普及してないというのがあって、まず子ども医療費については、国全体の制度にはなっていないくて、地方自治体が独自にそれぞれやっているというような仕組みになっておりますので、県も含めて、マイナンバーカードの活用などが、或いは国全体では進められていますので、そういったものができるかどうかというのを見極めていきたいなというふうに思っています。

まずは子ども医療費についての申請の手続きのオンライン化については、児童手当と同様にやっていけるというような方向で今検討していますので、そちらから着手していきたいというふうに考えております。

A 市民生活部長

備蓄品が、重複していて、無駄じゃないかということですが、まず災害のときには、やはり自助が一番大切になります。皆さんには日頃から最低3日程度は水と食料品は備えていただきたいと思います。もし、それが駄目なときには共助という意味で、松ヶ丘自治会などの自主防災組織で備蓄しているものがあるはずです。松ヶ丘ですと、指定避難所が、東小学校、向小金小学校、東部中学校、向小金福祉会館、東部公民館ですが、確かにそこでも、備蓄品は備えております。ただし、それはあくまで、自宅の倒壊などにより、自宅の備蓄品を取り出せない方など、避難された方が主になりますので、自治会で備蓄していても、無駄にはなりませんので、ぜひ今後とも備蓄をよろしく願いたいと思います。

A 教育長

松ヶ丘ということで東部中学校に進学ということかと思います。市内全域東部中学校に限らず、今後電子黒板の導入だとか、最新の設備に入れ替えというのを検討しておりますし、都内で言いますと、公立中学校への進学率は5割程度なんですけれども、流山については概ね9割程度が公立中学校へ進学しております。そのため、市内の中学校の設備面だとかあと教育内容というのは、さらに充実を図っていく必要があるかなと思います。

先ほどお話に出た千代田区の麴町中学校、工藤校長で劇的に変わったという話で話題になっておりますが、来週実は11日におおぐろの森中学校で対談することになっておりますので、もしよろしければ聞いていただければと思います。その場での内容も参考にして、取り入れられるものは、流山でも取り入れていきたいと考えております。

Q 市民

現在、南流山の自治会の広報をやらせていただきながら、地域の活性化というところに協力させていただいているんですが、そういった中で3点質問させていただければなと思います。

まず1点が、南流山で何の問題があるかということやはり流山橋の渋滞だと思います。日曜日平日問わず、渋滞しておりまして、なかなか新しくかかった橋ができて、渋滞が解決されないような状況です。仕事柄JRさんの仕事をしておりまして、武蔵野線の三郷の方から、流山というのはよく見ることがあるんですが、その際にふと思ったことが、橋の真ん中から埼玉の方まで行くと、車がスムーズに流れているんです。何が問題なのかなというところを見てみると、やはり流山キッコーマンの裏側から上がってくる、土手沿いの道から入ってくる車が、メインの街道の交通を止めて、高速道路の自然渋滞みたいな形で、どんどん渋滞が溜まっているような状態になっています。そういったところを踏まえて、私なんかは、あそこの土手から上がってくる道を止めてしまえばいいのかなとは思ったんですが、なかなか国交省も絡んでいることなので難しいと思うので、例えば渋滞緩和というところで、市の政策として、社会実験ということで、平日と土日であそこの流入というのを一旦止めて、どれぐらいメインの国道が流れるか

というのを検証したらどうかなというのがまず1つ。

もう1つが新しくかかった三郷流山橋。あちらの方に橋がかかってもなかなか走っている車を見ないので、原因としては何かなというのと、やっぱりETCカードが使えないというような、自治会をやっていますとご意見いただくことがあります。そういった中で例えばそれも社会実験として、年に1回だけ無料通行の日を設けてみて実際にどれくらい利用する車があるかというのを市として検証してはどうかなというところが1つです。

そういったお金がかからない取り組みというところでやってみてはどうかなというのを提案させていただければなと思います。

A 土木部長

1点目の旧三郷流山橋の渋滞ですが、当該箇所は県道で、先ほどお話のあった通り、県道と県道が交差する流山8丁目交差点で渋滞が発生しております。さらに三郷方面に向かいますと、先ほどご紹介のありました土手沿いの道路は、市道です。市道とT字で交わる場所、細かく言うと実は十字路ですが、その交差点からの流入流出があるがために渋滞しているという状況でもありますが、実はその先の埼玉県側で、時間帯にもよりますが、三郷駅前のロータリー交差点やその先の武蔵野線ガード下をくぐった先の交差点で、ららぽーと方面に右折する車両がいると渋滞している状況です。さらにその先にある高速道路までの区間では、さほど渋滞はしてなく、何が原因かというよりは武蔵野線沿いに右折する車両の渋滞が先頭と把握しており、道路管理者である千葉県・埼玉県も、その状況は把握しております。

ご提案のあった通り、先ほどの土手沿いの交差点の市道の社会実験というのは、今後研究してまいりたいと思いますが、昔一方通行だった時代も過去にあります。約50年ほど前ですが、当時旧市街地の商店街の人達からの反発があり、流入流出の制限によって商売が成り立たないという声で、現在の交互の通行になっております。周辺の住民の方々の理解協力も得ながら、行政として、流山橋の渋滞解消の一助になるよう注視してまいりたいと思います。

そして2点目、先ほどの流山8丁目交差点から北上した県道のところについても、同様に渋滞はありますが、イトーヨーカドーあたりか

ら流山8丁目にかけての区間については、今は若干減ったと思います。新三郷流山橋が2年前に開通され、道路管理者である埼玉県道路公社が管理しております。千葉県と埼玉県の両県で協力して5年間で整備し、橋ができましたが、まだまだ計画交通量の利用台数の確保ができておりませんので、その周知は非常に重要だという認識は、千葉県も埼玉県も持っています。また、流山市もその協議会には一緒に入って打ち合わせしております。流山市としても、旧流山橋の渋滞で停まっている車両にむけて、この橋は渋滞しているから、別の新しい橋の案内看板を立てる提案もしており、更には流山市内にも看板を立てて誘導する案も、今動いております。私自身県道のイトーヨーカドーから流山8丁目までの渋滞というのは、昔よりは渋滞が少なくなったという認識でおります。

ただ、橋自体は時間帯によって混んでおり、私は有料道路を毎回使っていますが、ここ最近若干ではありますが、有料道路の利用者が増えてきたと感じております。改めてもう少し長い目で見ていただければと思います。

Q 市民

2点ほどございます。

1つが人流とか交通の面、もう1つが教育の観点です。

2019年に転入してきたんですけども子どもが2人いるんですが、これから小学校に上がる子と、保育園の子どもがいるんですが、まず、学童の話結構問題として聞いていて、子どもの0歳から6歳の転入がかなり多いと先ほど話があったと思うんですけど、働いている方が、おおたかの森とか流山市は多いと思うんですけども、そこに対して学童がないというのは、働く面と子どもの学校が終わった後の活動がなかなか心配できないというふうなところは、家庭の関係上あるというお話をいろいろ伺っております。その対策とか現状というのをお聞きしたいというのが1つ。

あと教育関係だと高校が都内に行くとかという話が、結構上がってきているので、都内に行かずに、なるべく近場で行ってくれた方が多分いろんな負担の面だったりとか、流山市としても、お子さんの時間を移動で使ってしまうとかそういう点も、防止できるかなと思ってそ

この現状方針だったりとかお聞きしたいなというふうに思っています。

2つ目は交通の面ですけど、TXの延伸、車両の追加とかという話が上がってきているかなと思うんですけど、具体的にどのぐらいのスピード感なのかというところと、もう少し上げられないのかなというのが、私も都内に通勤しているんですけども、山手線ぐらいの混み具合になっていて、結構大変だというのがあって、あと小さいお子さんとか小学生も結構乗っていたりとかするので、そこは教育の観点とかも苦勞するのかなと思っております。その状況というところと、あと最近困っているところが、おたかの森駅周辺に人が増え、あとは流山インターのところへ倉庫ができてトラックがたくさん来ると。防犯の面が大丈夫なのかというのは周りからも聞いていて、例えばその駅周辺とかだと、自転車は押して通行してくださいとありますが、なかなかそこが守られずに、小さいお子さんもいて、ご老人の方もいるのにすごいスピードで自転車を飛ばしていくとか、人が増えているがゆえに、まだその防犯体制とかルール、体制みたいなところが、広まってない気がしているので、どういうふうな形で今動いているのか、この2つをお聞きしたいなと思います。

A 教育長

私から学童と私立の関係について、回答したいと思います。

まず、学童については、流山市は、待機児童がゼロでして、すべてご要望があれば、すべて入っていただいております。他都市ですと、小学校4年生ぐらいまでしか使えないという学童も流山市は5、6年生も通っていただいておりますので、他都市よりかは、さらに1歩踏み込ませていただいております。

また、私立ですけども、私立中学校高校を市内のどこかにという動きは、私の耳には今のところ入ってきておりません。もし、そういった話があれば、またいい場所があれば、市としては、場所によっては大歓迎かなとは思いますので、もし話があれば、進めていきたいということは考えております。

A 市長

私立高校などの教育施設ですが、流山市はセントラルパークの駅前

に当初インターナショナルスクールを誘致しようということで始めて、いろいろ紆余曲折があって現在の暁星国際の小学校ができていますが、約５年前に暁星国際から中学校高校も流山市に作りたいという要望が上がってきていたのですが、問題は、人口減少時代で、千葉県とか全国的には、私学協会が新しい学校を作るというのはもうほとんど絶望的な状況になってきていると思います。

今ある中学校或いは高等学校に今までよりもさらに充実した学校を運営していただくということが、今できることで大事な事かなというふうに思っております。

T Xの８両化ですが、随分前から要望し、コロナ禍の前から、８両編成化が動き出していました。ただ、電車を走らせながらの工事になりますので、深夜１時半ぐらいから、工事を開始して、朝方４時ぐらいには終わらないといけないということで、大変時間のかかる事業です。特に、地下の駅よりも高架の駅の方が工事が大変だと聞いていますけれども、実際に動いてはいるんですが、私も最初聞いたときに時間がかかると、大変な混雑になってしまうということで、心配して、沿線からも確認を取っていますけれども、現在のところ、全部の電車が８両化になるというのは、２０３０年代前半、あと８、９年ぐらいはかかる可能性があります。この件については、毎回、首都圏新都市鉄道にも確認をしていますが、鋭意進めてはいるけれどもなにしろ工事時間が取れないので、とにかくやれる範囲で精一杯やっているというお答えしか返ってきませんので、おそらくそうなんだろうと思っております。

A 土木部長

おおたかの森駅の周辺の自転車の押し歩きのルールですが、毎月１５日が自転車の日ということで、おおたかの森に限らず、市内の主要交差点並びに駅前で啓発活動をしております。その中で、特におおたかの森に関しましては、利用者が多いですので、あえて、目につくところに、押し歩きしてくださいということで、アナウンスさせていただいているところではあるんですけども、その時に、チラシをお配りしたり、ここは降りてくださいねとか、歩行者があくまでも優先ということで、お伝えしている次第ではあるんですけども、どういたし

ましても利用者がとにかく多いものでございますので、啓発活動は、より強化してく必要があるのかなと思うんですけども、おたかの森に限らず、南流山駅であったり、初石駅であったり江戸川台駅であったり、主要な駅は市内にいくつもございますので、順番に、市内を転々と回って、周知に努めているところでございます。

Q 市民

3つ質問させていただければと思います。

10年ぐらい前に引っ越してきて、上の子が小学生で、一番下の子はまだ0歳で、保育園に関しては1人目のときはもう0歳の4月に入れないと、全然入れないみたいな感じだったんですけど、今は年度途中でも入れて、下の子も6月ぐらいに2ヶ月で預けることができ、すごく助かっています。

ただ一方で、保育料の観点を見ると、都内とか埼玉とかに比べると劣るのかなと思っていて、将来的に、流入も落ち着いてきているかなと思うので、新しい人をどんどん呼び込むという意味でもどういう施策を考えているというところをお伺いしたいです。

あと2点目に、先ほども学童のお話あったと思うんですけど、学童を使うほどではない人でも、夏休みとかに、パートとかで働く、たまに働かれている方とか、友人に結構いるんですけど、そういう方が夏休み中ちょっと働きたいときに、スポットで利用する場所がないので、昔は学校の校庭開放とかがあったんですが、最近なくなって、特に去年はすごく夏暑かったので、家にずっといさせるともう、テレビとかそういうところばかりになってしまいうっていうところで、夏休みとか長期休みに子どもたちが安心して預けられる場所がないのかというところをお伺いしたいです。

あと3つ目、中学校なんですけど、南流山中学校学区で最近移転してすごく校舎は綺麗になってすごくいいなと思う一方で、自転車通学されている方はルールを守ってらっしゃるんですけど、やっぱり車道を走っていて、大丈夫かなというところがあって、最初は貯水地に建設する予定だった小学校が、結局予算の関係でできなくて、中学校移転するっていう形になって急遽自転車通学ってなってしまったので、間に合っていないのかなと思うんですけど、先ほどもあったような歩道

の整備とかというところで今後改修予定があるのかというところを確認したいです。

あと、うちの子たちが中学校になる頃には、1学年400人とか500人とかになると思うんですけど、部活とかそういうところで、スタメンとかになれないんじゃないかなとか、そういう意味では公立はどうなのかなというところもあって、今後、中学校どうなるのか、教育面でそういうマンモス校は魅力が落ちるなと思っていて、そこら辺の意見をお伺いしたいです。

A 子ども家庭部長

保育料の関係についてお答えさせていただきたいと思います。

まず制度についてなんですけども、今保育所の利用料は、令和元年10月から幼児教育保育の無償化ということで、国全体の制度で、3歳から5歳はすべて基本的に無料で、0歳から2歳の住民税非課税世帯は無料ですけれどもそれを超える世帯に関しては、負担をいただいているということになっています。東京都や埼玉県よりも、流山の方が、高いのではないかというご指摘だったんですけども、流山も平成29年のときに、いわゆる所得に応じて所得階層区分というのがあって、いくら年収の方はこれだけお支払いくださいというような区分を設けているんですけども、国の区分に近づけるような形で、実は当時21階層とかなり細分化していたものを、13階層に近づけました。国の制度に近づけたんですけども、どちらかというと所得が上の方々の階層区分の幅を広げてということがあって、その階層の方々が、それまでよりも、保育料が若干上がったというような経緯があります。

ただし、平成29年のそれ以降、特に保育料の値上げというものは行っていない状況でして、例えば、子どもが3人以上いる場合には、国の制度でいうと、基本的に、子どもの数え方によって、第3子以降の保育料は無料となります。その要件として、国の基準では、1人目の年齢が就学前以下となっているところを、流山では、令和4年度から小学校3年生までに引き上げているというような状況があります。

実はそこまでを今やっていて、ご指摘の通り、千葉県内でも市川市

などは第2子以降無償化で、東京都は、来年度から、ご承知かと思いますが、小池知事のもとで、第1子から無償ということで、実質保育園に通う場合、お金がかからないというようなことが生じています。

確かに保育の利用料というのは基本、国の方では、応能の負担というものを取っていきまして、それに財政力によって、ある程度地方自治体で色をつけているというような仕組みになっていますので、そのあたりは財政状況にもよります。あとそれぞれの市の考え方にもよるんですけれども、現状において、流山市の方では第2子、第1子、もしくは、0歳から2歳のところの無償化というところまで踏み込んだところはまだ考えていないという状況です。

A 教育長

確かにおっしゃるようなご意見は、他の方からもいただいています。特に夏休みなど子どもの長期休暇のときに預けられる場所がないかというお声は聞いております。

子どもの居場所づくりについては市としては、子ども家庭部と連携して、どこにしていこうかということを検討しているところではあるんですが、現状として公民館で、夏休みの各種イベントなどが多数用意してありますので、そういったものをお知らせしているというところがございます。ただ、お近くにどこか決まった居場所があるといいという声はよく聞きますので、引き続き検討していきたいと思います。

また、南流山中学校のご意見もあったかと思いますが、通学路、自転車通学で非常に危険じゃないかというお声は、確かに聞いております。ただ、この4月に移転して、もう10ヶ月ほど経ちますが、事故は1件も起きてはおりません。ただ安全対策として、いろいろな様々なご意見を聞く中で、今日のお話も学校側にも伝えていきたいと思えますし、あと道路の方で何か整備ということがあれば、そちらの方は土木部長に補足いただきたいと思います。

A 土木部長

土木部といたしましても、昨年の春に新しく南流山中中学校が移転されて、鰯ヶ崎団地の地区内に、去年11月5日から30キロ規制ということで、ゾーン30プラスという、エリアを特定した速度規制をか

けております。

さらに、開校前に、車両の運転手が気づきやすい、通学路という視覚効果も含め、前年度に、両側、太めの緑の帯のグリーンベルトという整備をさせていただきました。あと、鰯ヶ崎陸橋では、数ある自転車通学のルートの中の1つではありますが、流鉄線の上を橋がかかっているところに関しましては、車道の路肩が狭く自転車は軽車両であることから、基本は車道通行ではありますが、通学する中学生の安全を第一に考え、歩道に青色の実線を引くことで、歩行者と自転車のすみ分けをさせていただきました。

開校後につきましても、毎年通学路合同点検で、地元警察、教育委員会、道路管理者、PTA、地域の自治会の方々と一緒に各場所で、現場立ち合いを実施して、対策内容によっては警察の助言をいただき、また道路管理者として何ができるかというのも、1つ1つ、その問題提示があった箇所に関して、対策を講じている状況でございます。ですから、面や路線で整備するという大きな整備ではなく、ポイントポイントでの、問題の箇所を改善していくということを行っております。

Q 市民

ありがとうございます。

私も毎日通っているので、マイナーチェンジしていただいているのはすごくわかっている一方で、ただ、学生さんだけが左側通行していたら、送迎しているママさんとかは自転車で逆方向を走ったりしていて橋がすごく危なかったりとか、あとは、自転車のマークはついていられるけれども、ポールとかがついて自転車の走行場所ですよというところまで明記されているわけではないので、事故がないからいいというわけではないかなと。あとは中学生もどんどんこれから増えてくる予定なので、そこもまた引き続き見ていただけるといいかなと思います。

A 学校教育部長

ご心配なすることは本当にごもったもかと思えます。お話の通り、10クラスを超える可能性もあるということで、また、大規模校は南流山中学校のみならずいくつか抱えておるところでございますが、大規模だからといって、子どもたち一人一人に目が行かないとかという

ことにはならないように、最善を尽くして、教員の配置であるとか、施設面であるとか、或いは、学校行事であれば、例えば分けて行うとかということも含めて、現在、取り組んでいるところでございますので、一人一人のお子さんの活躍の場というものが少なくとも保障されることはご安心いただきたいと思います。

部活動についてですけれども、実は地域移行というのを進めておりまして、部活動の良さというのは確かにあると思うのでここを生かしつつも、お話にあった通り、例えば大規模校だからレギュラーになれなくて、小規模校だけなれるという状況はできるだけなくしていきたいと。もっと言うと、大規模校にはこの種目があるけれども小規模校はないというところもなくしていきたいと。あわせて、一つの種目だけじゃなくて、いろんな種目をやりたいなという、そういうお子さんも多数ニーズとしてあるので、そういったことも含めて、新しい形というのを今作っている最中でございますので、そこもぜひ期待していただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

Q 市民

前ヶ崎エリアのお話から入らせていただきたいと思いますと思うんですけれども、主に4点伺いたしたいと思います。

1つは、私のいる前ヶ崎の東部地区というエリアになると思うんですが、どうしてもおおたかの森を中心に、今非常に力を入れて投資されていらっしゃると思うんですけれども、南柏駅を使って、都内に通勤されている方も非常に多いエリアかと思っております。そして、また最近、昔の家が大分建て直しされて新しい方々も多く住んでおり、森や林がまた開拓されて、新築も非常に増えているエリアになっておりますので、東部エリアを今後流山市としてどういった地区にされていきたいのかということをまず伺いたしたいと思いますというのが1点目です。

そして、2点目がそこに繋がる部分ではあるんですが、どうしても交通の便というところではありますと、駅まで出るところにバスを使われている方もいらっしゃると思うんですが、コロナ禍のあと、運転手不足というのもありまして、朝も夜も大分減便されてしまいましたので、都内に通勤する身としましては、駅から帰るときに非常に不便を感じております。どうしても南柏駅の東口の方ですと、バスが非常に

たくさんありまして深夜バス等も出ているんですが、我々が使う西口のエリアは、コミュニティバスは非常にありがたいんですけども、それも、終バスが20時になってしまいましたし、また東武バスが唯一走っている南流山駅行のバスも、終バスが18時台になってしまったというのもありまして、非常に駅からのアクセスに困っているのもその辺のルートなり時間というところをもう一度見直していただけないかなというところが2点目です。

そして3点目が、国道6号のところの街灯になるんですけどもここは、流山市だけの話ではないと思うんですが、6号も明るいかと思えば実はその大手さんの店舗が出ている街灯が結構早い時間に消されてしまうんです。そうすると死角になってしまって、結構暗いところがいくつかございまして、そこを歩いて自宅の方に帰らなくてはいけない、バスがないとそうになってしまうんですけども、そうしてくると、せめて街灯だけでもあると視認性も上がりますし、歩いて帰るときにも安心して帰れるかなと思いますので、そういったところも国道の街灯を見直しなり、ご検討いただけるとありがたいなという点です。

そして、もう1点が観光の部分になります。7年前に隣の松戸から移転してきたんですけども、しかも隣の北小金という駅を使っております北小金は、東漸寺や本土寺という観光となるとところがいくつかございまして、あじさいでも結構有名な本土寺がありますが、その流れで、前ヶ崎のエリアもあじさい通りという通りも一応あるんですけども、高齢化も進んでいるからか、どうしても観光に来てくださる方もいるんですけども、その周りの雑草といった手入れがなかなか間に合っていないような状態なんです。東部公民館の前もバス停はあるんですけども、バス停が草で隠れてしまっている期間が非常に長くありますので、ちょっと残念だなというふうに思っています。もしかしたら、昔はその自治会で結構やられていたのかもしれないんですけども、多分そこまで今は手が回ってらっしゃらないのかなあというのがありますので、できましたら市の力添えをいただきまして、あじさい通りにもう1回力を入れていただくと、東部公民館周辺の雑草とかも、もう一度、頻度を見なおしていただけたら非常にありがたいなというふうに思っております。

A 市長

東部地区をどういう地域にしていくかということですが、市域が非常に入り組んでいて、東部地域の皆さんは、やっぱり買い物とか或いは通院とか、いろんなことで南柏駅周辺特に東口を利用されている方が多いと思います。そういう意味では、生活圏は柏で、住むところは流山市ということで、いろいろご指摘ありましたけども、エリアとして、流山市の地域の部分に関して、東部地域というのは、基本的に良質な住環境、閑静な住環境を守っていくということが基本で、大きな商業施設を誘致したり、或いは住宅地の中に渋滞を発生させるような何か大きなものを作るという計画は全くございませんし、それから、本州団地周辺は、市街化調整区域になっていて、これからも基本的には農業ができるエリアという位置付けになっていますので、大きな開発をするエリアということではない指定をしていますし、これからもそういう形になると思います。

今ある既存の住宅地の環境を良くするためにどういうことができるかというのは、東部地区の場合、大変熱心に、24自治会が一緒になって東部地区自治会連合協議会があって、毎年、いろいろな課題について、すり合わせをしておりますので、そういった中で、自治会で回覧などされているかと思いますので、ご覧いただいて、自治会に上げて、また少しでも一緒に改善できるようにしていきたいというふうに思います。

バスについては、不便な地域でしたので、ぐりーんバスを松ヶ丘からおたかの森の方へ結ぶ形で作っていますが、それ以外は本当にもともと利用者が少ないために、収支が合わない。さらに、運転手もいない中で、優先的に切られてしまう路線になってしまっています。

特に高齢者の方々に、福祉部門になるような状況のときには、福祉関係で足を確保しますけども、それまでのところは、バスがご利用できる方は、なくなる前に利用していただきたいということをお願いしています。本州エリアの団地は、本当にバスの便が少なく、なかなか使えないですね。この地域で話し合っているのは、高齢者の足の確保というところで、まずそれをどういう形にしていけるかということで、協議をしているところです。

通勤に使うというところまでは、現状、手が回っていませんので、

大変申し訳ないんですけど、まず、高齢者の或いはバス停まで行けない人たちが増えていますので、その方たちの足をどう確保するかということで、東部地区で話し合いを進めているところです。

A 土木部長

まず、国道は国が管理する道路になりますが、その道路管理者が管理すべく、道路照明の球切れであれば、我々の方から、国道事務所にお伝えすることは可能ですが、その6号沿いの歩道を歩く上での照明や街路灯いわゆる防犯灯となりますと部署が変わるので、後ほど回答させていただきますが、続いて、草刈の件についてお答えします。

特に東部公民館前のバス停のところににつきましては、以前のタウンミーティングでも皆様からお声をいただいておりますが、その中で、他の地域の方から、なぜ市は草刈をやってくれないのか、やってくれているんだけどもっと数多くやった方がいいんじゃないかというご意見をいただいたところ、前ヶ崎自治会の地域の方が、手を挙げられて、私の地域は、皆さんで自分のところの家の前の草刈は当然やっていますから、他の地域でもぜひそれはやるべきだというお声をいただきました。ただ、今回のそのお話のあったバス停のところは、公民館の向かい側で家が立ち並んでいない箇所になろうかと思えます。

道路管理者として、草刈は年に3回やっており、市内全域、道路の延長約680キロ管理しておりますので、繁茂した草刈に関しては、順次、市内を優先順位つけて、草刈に努めておりますので、今後繁茂の状況を見てご一報いただければ、工夫はできるかと思えます。

A 市民生活部長

国道6号に防犯灯を設置できるかというのは今すぐにはわかりませんが、例えば、市道とか住宅街につける場合には、各自治会からの要望によりつけておりますので、暗いところは自治会に要望していただいて、自治会から要望書を提出していただければ、検討していきたいと思っております。

Q 市民

先ほどおおたかの森の周辺は、栄えているというのはもう皆さんも

ご存じのことだと思いますが、江戸川台駅東口について、先ほど再開発の話がありました一方で、西口は、最近、空き家も多く、実は先週も私の住んでいる家の通りで、空き巣があったということがありました。やはり空き家が多くなったことと、高齢者が一人暮らしされている方とかが多くなったことで、防犯の面でいろいろ気になっていることがあります。先日、船橋市で、1世帯当たり最大2万円の防犯対策費が出るという話がありまして、市としても例えばそういうことを検討されているのか、その発展だけではなくてやっぱり守ることもしていただきたいと思っていて、そこについてどうお考えになっているのかをまず知りたいです。ただ、2万円を支給するだけではなく、やはり高齢者などお1人で住んでいる方は、それを設置することも大変だと思いますので、例えば、設置に関する人的な補助とか、そういうのもあわせてご検討いただけるといいのかなというふうに思っています。

あと、防災の面なんですけど、能登の震災で能登町が姉妹都市であると思うんですけど、市としても、移動トイレを1つでも所有したらいいのかなというふうに思っています。

A 市民生活部長

まず、防犯の関係でございます。船橋市が3月3日から3月末まで、2万円を防犯対策に講じるということは存じており、確かに個人の方が防犯意識を持つことは、非常に大事だとは認識しております。

流山市が展開している防犯対策としましては、地域全体を見ながら、ポイントとなるところに、効果的な防犯対策を講じた方が良いと考えていますので、大変申し訳ないのですが、現在は、個人的な補助は、検討をしていません。東京都内の自治体も補助をしているところがありますが、世帯数に対する補助率が低く、即効性が見えないというところがあり、また、被害の減少に繋がっているかと言いますと、そこも見えないところもあるなど課題がありますので、その辺は今後、調査研究していきたいと考えております。

あと、トイレトレーラーについては議会でも、よくご質問いただいています。トイレトレーラーが快適であるということは認識していますが、一方、機能性、容量において、マンホールトイレと比較すると処理できる容量が、かなり小さいんです。1日1台で、200から

300人しか使えないとか、トレーラーですので重量によっては、けん引という免許が必要になります。また、職員がけん引免許をとるのかということもありますし、置き場やランニングコストも非常にかかります。また、全国で持っているのが各自治体で、30自治体しかございませんので、市町村で1台持っていたても、流山市の避難所72ヶ所全部の避難所に置けない、1台だけでも、容量的に有効な活用ができない、かといって他の自治体から応援に来るのかといった場合、30台しかないため、割り当てられるかといった課題があります。

ただし、今後も周辺の状況等を見て、調査研究はしていきたいと考えています。

A 市長

いろいろ説明をいたしましたけども、能登の場合は、人口密度が少なく、人口も1つ1つの集落が非常に小さいわけです。数百人単位。流山のように人口密度が高くて、21万3千人に対して、このトレーラーが使えるかという、全く足りないです。1つ1つの自治会が持ちにならないと対応できないぐらいの容量しかないので、流山市では、これは検討しないということで考えております。

それから空き家対策ですが、この空き家というのが、非常に実は難しく、見た目の空き家と本当の空き家というのがありまして、本当の空き家は、住んでらした方が亡くなって、そして相続する方が、不明の方或いはいらっしゃらないかのときに、遺言かなにかで書いてあれば別ですけども、そうでないと、本当の空き家になってしまうんです。多くの場合は、例えば特別養護老人ホームに入っていて、空き家に見えるけど実は所有者がいて、場合によっては戻ってくる可能性があるところ。それから相続して、その中で相談をしなきゃいけないことがあって、時間がかかっているという、これも空き家に見えるけれども、所有者がいて、いずれおそらく相続物件として売り出されるわけです。本当の空き家は、流山市はかなり少ない。ただ、そこに住んでいなければ、確かに空き巣だとか、或いは場合によっては放火なんてことも、なきにしもあらずですから、流山市の場合は、自治会ごとに防犯をしていただいたり、或いは個人的に高齢者がお1人で住んでらっしゃるところを見守り、個別避難計画などで、地域の方々が、そ

の方が大丈夫かどうかというのを気にしていただく仕組みを作っているところです。

そういうことで、そういう方々が安心して住み続ける或いは安否を定期的に確認していくような仕組みというのは、しっかりと継続して拡充していかないといけないというふうに考えております。

Q 市民

10年ほど前に流山市の方に移住してきまして、定住するつもりはサラサラなかったんですけども当時は、おおたかの森のエリアを非常に気に入りましたので、先日、家を買って、永住する覚悟を決めて、住み始めております。

何点か質問させていただければと思うんですけども、まず学校の教育の質についてですけども、2024年やその数年前に市内小学校の教員による事件があったかと思います。いずれも、おそらく学校外での事件だったのかなというふうには認識しておりますけれども、大前提としてその教員の先生方の個人のパーソナリティによるところが根本的な原因だとは認識してはいるんですけども、やはり流山市は子育てに力を入れているというところもあるかと思いますが、やはりこの教育の質の担保というところは、徹底をしてお願いできればなというふうに希望しております。

実際私の子どもが通っているのは八木北小学校というところなんですけれども、担任の先生は非常に熱心に取り組んでいただいているという印象を持っております。ただ、他のクラスの子どもの話を聞いたりすると、他のクラスでは毎日、怒鳴り声が聞こえてきて、子どもたちが萎縮してしまっているとかという話も、実際にそれを私が目で見ているわけではないので断言はできないんですけども、そういった話も耳にしたりしております。ただ、教員を全員しっかり管理監督するというのではなくてやっぱり業務量とか、教員の心理的ケアとか、そういった対策の方が非常に重要じゃないんじゃないかなというふうに考えておりますので、教育者への継続的な研修とかサポート、精神的なケアですとか業務負荷改善のシステム導入とか、今本当にテクノロジーが非常に発達してきておりますので、事業の一部、例えば動画配信教育を導入するとか、AIの活用とか、そういったところも含め

て、なかなかすぐに取り組むというのは難しいかもしれないんですけれども、そういった視点でもご検討いただけると、より教員の先生方の業務軽減にも繋がって、よりよい教育環境というが整っていくんじゃないかなというふうに思っておりますのでご検討いただければと思います。

あと、もう1点、道路の整備についてなんですけれども、おおたかの森のエリアというのは非常に人口が増加して交通量も非常に多くなっているかと思います。ただ、私の子どもが通っている八木北小学校付近の美田地区というところで、割と古くて細い道が多くて、ピンポイントで何ヶ所か、見通しの悪い交差点というのは結構あります。そこが子どもたちの登校のメインの通りになっているというところもあって、何度か危ないなというのを目にしたこともあります。朝とか、学校の先生と保護者のPTA活動の一環で、登校時の見守りは行っているんですけれども、やはりおおたかの森の駅前の方とかだと、なかなかもうすでに家がたくさん建っている状況なので、そこを広くというのは難しいと思うんですけれども、もうちょっと整備を進めていただけると、子どもたちが安全安心に通えるのかなというふうに考えておりますのでご検討いただければと思います。

あと、上履きのままトイレに入るという感じに八木北小学校はなっております。妻が言うには非常に汚れて帰ってきていると、それがトイレに上履きのまま行っているからかどうなのかはわからないんですけれども、トイレは割と、家庭とかでもスリッパを履いて行くというのが一般的なのかなというふうに思っていますので、何が正解かというのは、わからないんですけれども、スリッパの導入とかというのも検討いただけたらなというふうに思います。

学校教育無償化というところもぜひご検討いただければと思います。財源のところ、どれだけ必要なかというところは、私もわかりかねますので、大阪ですと高校無償化とかそういったことをやっているかと思います。財源の規模が違いかと思いますので、実現可能な範囲などあるかと思いますので、検討はされているかもしれないんですけれども、ぜひ考えていただければなと思います。

あとバスの便の話、先ほどもありましたけれども、自動運転とか、そういった技術もどんどん出てきておりますのでそのあたりで何か解

消できる良いポイントがあればそういったところも検討いただければと思います。今のAIの技術で、仮想空間でマップを表示して、その仮想空間の中でバスがちゃんと動くかどうかというところも検証がいろいろされているようですので、ぜひそういった技術も、視野に入れながら、ぜひ検討いただければと思います。

あと小さな話になりますが、近所で十太夫近隣公園という公園があります。先ほどもあったんですけど、草刈、夏は非常にすぐ伸びてしまうので、頻度を上げていただけるとありがたいなと思っています。

あとこれは希望なんですけれども、おおぐろの森小学校の裏手の方に、遊歩道といいますか、自然が残っているところがあります。6月7月とかになると蛍がたくさん飛んでおりまして、そういったところが非常にやっぱり個人的には気に入って、この街に住んだというのがあります。そういった自然の保護というところはこれからも継続してお願いできればと思います。そういったところをご検討いただいて流山市がより住みやすい町になると、非常にうれしいなと思っておりますので、ぜひよろしくお願いいたします。

A 教育長

学校教育に関するご意見いろいろとありがとうございます。

まず、八木北小学校に通っていただいているということですが、過去の市内小学校での不祥事については、ご心配をおかけし、大変申し訳ございませんでした。各学校また各教員への指導は、徹底しておりますが、学校の教員というのが、流山市での採用ではなく、千葉県での採用なので、千葉県とも一緒に協力しながら、どういった研修するのか、指導するのか採用していくのか、配置していくのかということは、連携していきたいと思います。これからも強化してまいります。

AI事業の関係ですけれども、文部科学省の学習指導要領というのが定められていて、その学習指導要領において、教えられるのが、教員免許を持った人というのが、法律の中でありまして、文科省とも少し協力しながら連携しながらなんですけれども、おっしゃっていただいたような教員の働き方改革だとかAI授業を入れてはどうか。またこれだけAIの技術だとかICTが発達しているので、動画ですとかYouTubeの配信だとか、そういった取り入れられるものもある

んじゃないかということは、すでに協議させていただいていて、できるところから入れていきたいとは思っております。いきなりＡＩ授業という形には難しいんですけれども、極力、動画を見せて、動画の方がわかりやすいとかというのは、取り入れていきたいと思います。引き続きよろしくお願いします。

A 学校教育部長

スリッパの導入というところにつきましては、現在検討しておりますが、学校によって、例えばトイレから出てくるところや、雨の日の体育館に入るときのことであるとか、確かに汚くなる場所があるので、その辺りにつきましては、学校との連携を取りながら、例えばその場所についてマットを置くであるとかの対応を進めているところです。八木北小学校を含め、他の学校についても、確認を進め、できるだけ、綺麗で衛生的な環境ということで考えております。

あと流山市では、実はトイレを数年前にリニューアルを図りまして、今全校が洋式化、そして、床の方も全部綺麗になっているところでございますので、このところは清掃等も通しながら引き続き清潔を保っていければと考えております。

A 土木部長

道路整備についてお答えさせていただきます。

日々、通学の際に、地元の方々、ＰＴＡの方々、また学校の先生にも協力していただいております。狭い道路の横断など、十分に子どもの安全を第一に考えてご協力いただいていることに改めて感謝申し上げます。

八木北小学校の南西側になりますが、東武線の踏切を渡ってセブンイレブンやバレー教室がある道路を北上した１つの都市計画道路、カスミストアから美田団地の方に向かっていく都市計画道路の整備を進めております。現段階では、地権者の方々と交渉している段階でして、その２路線の整備については、工程を調整しながら、あくまでも、児童生徒の通学における安全を第一に確保することを目的に関係する方々のご協力もいただきながら、現在整備を進めております。

A まちづくり推進部長

私の方から3点ほどお答えさせていただきます。

最初のバスの自動運転の関係ですけれども、現在、皆さんもご承知の通り、運転士不足と、働き方改革により、バスの運転手さんの時間が拘束されてしまって、どうしても足りないということで、全国的な話ですけれども、かなりの減便がされている状況です。それに代わるのが、ご提案がありました、自動運転で実際にいろんな自治体でも、それに向けての社会実験じゃないですけれどもそういうことをやっているところで、レベルが1から4までありまして、レベル2の場合は、運転士さんが乗って、もし危ないときはブレーキ踏んだりとか、ハンドルを切ったりだとか、そういう状況でやっているんですけれども、なかなかレベル4、要するに運転手なしという方向については、国も含めてですけれども、いろいろ社会実験も進めているところなので、我々も先進地のところに視察とかもさせていただいて、研究しているところでもありますので、いずれ全国的になっていくと思うんですけれども、引き続き研究していきたいと考えています。

続きまして、十太夫の近隣公園の草刈です。ご迷惑をかけて申し訳ありません。皆さんもご存じのように年々暑さがかなり続いており、草の伸びるスピードがとても早い状況で、草刈は随時やっているんですけれども、実際に追いついてないところもあります。市の職員もパトロールをしていますし、業者もパトロールしておりますが、なかなか見きれない部分もあろうかと思います。もし、そういう情報があれば、市のみどりの課というのがありますので、そちらにご連絡いただければ、対応させていただきたいと思います。

最後に、おおぐろの森につきましては、貴重な森だと我々も考えております。もちろん市もそうなんですけれども、NPOの方々にも協力をいただきながら、今の状況、環境を守っていく、そういうことを続けていきたいと思いますので、今後ともいろいろ協力していただければと思います。

Q 市民

子どもの習い事に関しての表彰のところで、子どもたちの習い事のサポートをしているママさんたちから貴重な意見を預かってきました

ので、質問させてください。

現在、私の娘もそうなんですけど、南流山を拠点にしているチアダンスのクラブチームに所属してしまして、昨年、全国大会で2位になったという結果を残しています。予選20チーム、全国大会で決勝13チームいて、その中で2位という結果になったんですけど、流山市の基準が決勝16チーム以上の参加でないと、表彰がいただけないといったところで、表彰されなかったと。同じチームの中でも、松戸だったりとか、柏に住んでいる子たちもいるんですけど、松戸だと大会に出るたびに、1万円もらえたりとか、全国3位以内で表彰されたりだとかチーム数の縛りがないと。これは柏です。松戸は8位までという決まりになっていて、同じチームの中でもこの子は毎回表彰されているけど、流山の子は表彰されないみたいな形になっていて、流山の基準というのを知りたいなというところと、あとは見直しが図れるのであれば、見直しをしていただけると非常にありがたいなといったところのご意見です。よろしくお願いします。

A 学校教育部長

貴重なご意見ありがとうございます。

まず、全国大会で2位ということで大変すばらしい成績と十分認識しております。本当におめでとうございませう。引き続き、頑張っていたきたいなと思っております。

基準はおっしゃる通り、団体につきましては16チーム以上の参加、個人であれば、県大会は16人以上、関東大会が32人以上、全国大会32人以上という基準があつて、これを周知した中で、ご推薦いただいているところではございませう。今回は、この基準に当てはまらなかったというところて残念なところであつたと思うんですけども、ただ、お話の通り、現在見直しをしようということで話を進めているところてございませう。

市長もできるだけ多くの子どもたちに、励ましをしていきたいというふうな気持ちを持っているところてございませうので、今後につきまして、より子どもたちに励みとなるような形で、進めていきたいと思ひますので、ぜひそのあたり見守っていただければと思ひます。

Q 市民

3点ほどお伝えしたいことがあります。

まず、西平井のマミープラスからゆず庵にかけての道路についてですが、ここが緩やかな曲線カーブになっておりまして、前方が見えづらい。意外と車のスピードが出しやすいため、時々危険な状況を目にします。そのような状況になってしまう原因としてはやっぱり速度の出し過ぎが原因なのではないかと思われるので、私としては速度30キロの制限を設けることで、安全に交通できるのではないかと思います。

また、西平井1丁目のセブンイレブンの裏道、サフランへ向かう裏道に死角の多い直角カーブがあります。そこで車で曲がるときは結構な神経を使うのですが、そこにカーブミラーを設置していただければ、少しは安全に曲がることのできるのではないかと思いますので、そこら辺の検討もお願いします。

最後、妻が保育士として流山市で働いているのですが、一昨年第1子が生まれまして、昨年、育休から妻が保育園に復帰したんですが、保育園側から看護休暇が取得できるというアナウンスがなく、他の保育士さんにも、妻から確認したんですけども、誰1人看護休暇の取得ができるということを知らずに、子どもの体調不良の際に、有給がもうすでにない先生たちも何人かいて、その時に欠勤として扱われてしまって、ボーナス査定に響くという状況があったみたいです。

ぜひ市役所の方から、市内の保育園に、看護休暇を取得できる権利があるということを、アナウンスしていただきたいと思っています。

最後に、流山市は本当に子育てしやすい市だと思っています。母になるなら流山というキャッチコピー通り、環境を整えてくれていることに感謝申し上げます。

A 土木部長

まず速度規制の話ですが、交通管理者である流山警察署の方には、情報提供をさせていただきたいと思います。

それと2点目の、西平井1丁目のセブンイレブン裏のところですが、当該箇所の地域は、市施行で整備した土地区画整理区域内でして、実は直角のように見えますが、ちゃんと隅切りがあります。ただし、お

話いただきました北側にあるパン屋さんの方に向かおうとしますと、左側に擁壁がある関係で、見づらいというご質問なのかなと思うんですが、実際現地の方は私も確認しております。セブンイレブンの真裏に当たる電柱には、注意喚起の電柱幕も設置させていただいております。

なお、基本的に、道路交通法上で、ドライバーは目視での運行走行ですので、ご要望のあったカーブミラー設置に関しては、補助的役割のカーブミラーであることから、今の状況を鑑みますと、注意して交差点に入れば、見えるという状況から、現段階では設置は考えておりません。

また、セブンイレブン脇にある歩行者専用道路も当該箇所に接道しており、道路の線形がL型ではなく、T字路であり、補助的と言いつつもミラーがあることで過信して交差点に入ると、歩行者との事故も予想されることを勘案すると、やはりカーブミラーがない方が人間の心理的にも十分注意して交差点に入りますので、現在のところ設置はしません。

交通安全は未来永劫担保されることはなく、日々、道路管理者はその変化に応じて必要な対策に努めてまいりたいと考えております。

A 子ども家庭部長

私立保育所での看護休暇制度の話だと思うんですけども、市内99ヶ所私立保育所ありまして、それなりの事業所規模なので、制度的にはあると思うんですけども、確かにそういった意味での周知啓発が行き届いていないというのは、各園によって、温度差があるのではないかというふうに、今お聞きしていて思いましたので、機会をとらえて、市の方からも、制度周知をしっかりと、保育士さんが働きやすい長く続けるような職場環境づくりというものを進めてもらえるように、喚起していきたいというふうに思います。

後程、個別にもし保育所を教えていただければ、こちらから、周知ができますので、よろしければ、教えていただければというふうに思います。

Q 市民

私は生まれも育ちも流山で現在も流山市内で、幼稚園教員として仕事をしています。長年多くの子どもたちの成長に寄り添ってきました。今日は、流山市の乳幼児が育つ環境について、現場の意見をさせていただきたいと思っています。

乳幼児の育ちは本当に人生の土台を形成する大切な時期だと思っています。0歳から2歳の時期は周りの大人との愛着関係を築き上げるべき大切な時期です。保育においての愛着というのは子どもの心の発達に欠かせない愛情や信頼の基盤のことです。このような愛着を基盤に、他者のことを信頼したり、良好な人間関係を築いたりできるようになると思っています。この愛着形成のためには、家庭、或いは少数の保育園などで、子ども一人一人とゆったりと愛情深く、関わり、育てられるべきだなというふうに思っています。

ただ、3歳以降はどうかというふうに考えたときに3歳から就学前の子どもたちは、たくさんの子どもたちとの関わりを求めるようになってきます。また、体を大きく動かして遊んだり、手先をいっぱい使ったり、多くの友達と関わってできるだけ多くの体験を積むことが大切な時期だと思っています。たくさんの子と関わって多くの体験する中で、人はみんな同じじゃないんだよとか、一人一人意見が違うんだということなどを知って、けんかしたり、共感したり、喜びを分かち合ったりしながら、人と生きていくことを学んでいくと思っています。心を動かして、多くの体験を積んで自信を持って、小学校へと進学できるように日々の園生活を送っています。

流山市は人口増加に伴って、多くの子どもたちがこの流山市で、育っています。私もとても嬉しいことだなというふうに思っています。

そして、受け入れる施設も本当にたくさん増えました。これからは、子どもたちにとって本当の意味で適した環境を整備して、質のよい保育や教育ができるように、環境と質に重点を置くべきだと私は考えています。市内の歴史ある幼稚園には長年の教育を通して築いてきた教育力があると思っています。流山市内に住んで、我が子も育てながら幼稚園で働くベテランの先生も多いです。そのようなベテランの先生は若い先生を育てる力もあります。私は、そのような幼稚園をもっと生かすことができないかなというふうに思っています。多くの子ども

たちの育ちに関わってきて、私が個人的に考えていることを感じていることは、2歳までは家庭やゆったりと時間が流れる保育園で育ち、3歳からは自立に向けて、多くの友達と関わって、子どもが主体的に生活できる幼稚園と、しっかり施設で分けて育てる方が、子どもの育ちには、私はいいんじゃないかと思っています。現場の先生たちもそのようにしています。

預かりを充実させて、働く保護者も預けられるようにしている幼稚園が今多いです。国の方針も多分あると思うので、難しい部分もあると思いますが、広い園庭とか教育力を持った幼稚園をもっと生かしていただいて、将来を担う流山市の子どもたちを、良い環境で育てられるようお考えいただけたらなというふうに思っています。

私はこれからも幼稚園で、流山市の子どもたちのために、幼児教育、心尽くしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。意見ですので、特に質問ではございません。ありがとうございました。

A 学校教育部長

幼稚園教育ということについて、学校教育部の方で担当させていただいております。ご意見本当に感謝と同時に非常に勉強になりました。ありがとうございます。

我々の方としましても、まず3歳以降の関わり、子どもたちのたくさんの方の関わりというところも、重視しているところではございまして、それも踏まえてですけれども、実は幼保小の連携ということを、今後力を入れて取り組んでいく予定でございます。

幼稚園につきまして私立幼稚園が大多数を占めているところ、そして、保育園につきましても先ほど子ども家庭部長からもお話ありましたが、100園程度の施設ございますが、これらを上手に連携させていくということの工夫を、様々な部署と検討しながら、そして市内の私立幼稚園はじめ、公立も含めてですけれども、保育所をはじめ、様々なところと連携を通して、我々もお伺いして、いろんなお話を頂戴しているところでございます。ぜひ多くの先生方等の話も聞きたいところでありまして、おっしゃる通り、力のある先生方が多くいらっしゃることも十分わかっておるところでございしますので、さらにお力添えをいただきたいと考えております。よろしくお願いします。

Q 市民

私から2点お話したいことがあります。

1点目、小児の救急搬送の受け入れについてです。うちの息子は難病でそれに伴い重いてんかん発作が時々出ます。発作時、以前は東葛病院が救急搬送先だったんですが、ここ数年東葛病院も受け入れてくれず、松戸市の市立総合医療センターへの搬送が続いています。救急医療スピードが大事だと思うんですが、松戸市立病院が遠いため、毎回1時間以上発作が続き、命の危険を感じています。これだけ子どもが増えているので、小児の救急を受ける病院がとても薄いことに対して心配しています。市として何か対策をとられる予定はありますでしょうか。

あともう1点、特別支援学級の介添人の不足についてです。同じく息子のことになるんですけど、持病に伴い、知的発達に遅れがあって昨年度まで市内の小学校支援級に通っていました。今年度より柏にある県立の特別支援学校に転校いたしました。要因の1つに介添人の減少があります。

入学時、特別支援学級2クラスに対して、介添人6人いらっしゃったんですが、4年生の頃には、3クラスに対して3人と半分以下になりました。大人の数が減ったために、交流級に通えない子が増えたばかりか、クラス内での事故、怪我、トラブルが増えました。介添の方皆様、退職ではなくておおたかの森小など児童が増えたところへ異動になったケースが多いです。

なので、市全体として不足が続いているのかなと思うんですが、実際、常にずっと募集が続いているようなんですが、私が疑問なのは、その労働時間です。ホームページには8時から16時15分のみ記載されているんですけども、実際これだと子どもを持つ親は働きにくいかなと思います。私も含む支援級の親は割と介添という仕事にとっても興味があります。障害児を育ててきた経験知識、なにより理解があるので、それを生かしていきたいんですが、8時と言われてしまうと、自分の子どもが1人で学校に行けないで、学校に送らなければいけない、帰りも迎えに行かなければいけない。とても1人で留守番はできない。そういった状況で働くために、ぜひ違った時間帯、例えば10時から14時の時間帯を設けていただければ、その時間、どこかの学

校で子どもたちを助けることができるかもしれないと思います。

実際、昼休みだとやっぱり他学級とのトラブルが多く、先生たちも連絡帳を書いたり、忙しくしている時間帯に大人の母数が増えるのは、とてもいいことなんじゃないかと思っております。以前は、早番遅番があったと、介添人の方からも伺っているので、それがなくなったことに対してやっぱり何か理由があったのかもしれないんですけれども、今子どもたちが増えている流山市、障害児も増えているということをぜひご理解いただいた上で、介添人さん、大人の助けが必要な子どもがたくさんいることを知っていただけたらと思います。

A 健康福祉部長

状況についてご説明します。まず、小児科医の確保については、全国的に非常に確保困難な状況があります。確保困難の中に医師の働き方改革も相まって、非常に困難を抱えているという状況です。そして医療体制、病院の病床確保については、医療法に基づいて市の単位ではなくて、より広域の医療圏で考えるものとされているのが根幹にありまして、本市を含む東葛北部の医療圏内で受けとめるとされています。千葉県保健医療計画が策定されていて、その中で東葛北部の地域の医療の連携ですとか、地域医療構想調整会議というのがあって、その中で病床の確保について、検討や議論がなされているところです。

令和6年の12月には、当該会議の中で小委員会が設置されまして、今後の小児と周産期医療について、広域で対応していくための策をどういうふうに考えていくか、課題の整理と方策の検討が始まったところです。私たちもその内容については、当然注視していくのと、必要な要望を上げていくことが、現状考えられることかと思っております。引き続きいろんな機会で、状況把握をして、できる要望をしていきたいと思っています。

A 教育長

介添人について回答したいと思います。

おっしゃるように介添人が今年度で言いますと、募集に対して12人不足していて、随時募集していて、なかなか集まらないという状況でありますので、ぜひ今日お聞きの方の中で、働ける人をご紹介します。

いただけるのであれば、是非ともご連絡いただきたいぐらい不足しております。

おっしゃるように８時から１６時までは難しいけれども、１０時から１４時までということであれば大丈夫という人も確かに中にはいるかもしれませんので、その件、内部でも調整して、過去の間緯がいろいろあったのかもしれませんが、今どうなのかということで、検討していきたいなと思います。貴重なご意見ありがとうございます。

A 市長

特別支援学校のことについて、柏特別支援学校に行かれているということで、２年前から、熊谷知事に特別支援学校の柏の状況、それから流山市の特別支援学級を必要とする子どもの数の増加傾向をデータでお送りして、そして、流山にも特別支援学校を作ってくださいということで、何度もお願いをして、昨年末に知事が柏の特別支援学校の視察にいられています。まだ、どういうふうに展開されるかわかりませんが、私の方も要望を続けますし、知事も来られているぐらいですので、気に留めていただいていると思うので、これから何か展開があれば、皆さんに広報等でお知らせをしまいたいと思います。

Q 市民

ありがとうございます。柏特別支援学校、教室が足りなくて特別教室全部潰している状況です。ぜひよろしくお願いします。

Q 市民

２点ありまして、１点は小学校についてと、もう１点は税金についてお聞きしたいと思っています。

学校教育に関しては他の皆さんからも様々な意見がありましたので、同じようなことになってしまいましたが、小学校についてもぜひ魅力的な小学校づくりを進めていただきたいと思います。

私は、２０１７年に流山市にやってきまして、今年子どもが小学校に入りました。おおたかの森小は子どもが多い多いとは聞いたんですけど、まさかこんなにマンモス校だとは全く思っていなくて、保育園には無事入れたけど小学校に入るときにはすごく不安がありました。

行けてはいるものの、学習指導要領はこなせている、行事は何とかできている、教員の目は行き届いているという、何かぎりぎりの状態ではないのかなということは日々感じています。

どうしても東京都とかと近いので、自分も東京出身ということもあって比べてしまうところがあり、より豊かな流山市らしい教育というところを模索されているとは思いますが、ぜひこれからも進めていただきたいと思います。これは意見です。

もう1点、税金に関しては、皆さん使われる方の質問があったので、入る方の今後どういうふうに税収入をアップされていくのかということを知らせていただける範囲で教えていただけるとありがたいなと思います。

A 副市長

大変貴重なご意見ありがとうございます。

財政部長が出席しておりませんので、私の方から税収アップについて、実は国会でも一番議論になっているのは、103万円の壁をどうするかとか社会保険の壁をどうするかとか、要するにみんな税金なんです。市町村でできる範囲として、私どもはいろいろご迷惑もおかけしていますけれども、新川耕地と北部地域に東洋一の物流を作りました。ご迷惑もかけていますが、税収で言いますと、固定資産税、都市計画税合わせて約20億円が入ってくる税金でございます。

従って、税収の確保については、さらに、企業から固定資産税の中では、償却資産税というのが申告制になっていますが、実態を調査して、さらに申告の内容の精度を上げていく。私どもは、きちんと納税をしていただく努力をして、実は、個人の市民税法人税は千葉県で一番収納率が高いんです。きちんと納めていただいているということなんですけれども、さらに、税収アップについては、インター周辺の開発についても拡大をして、そして、市民の福祉や医療、教育福祉にまわしていくものを確保したいというふうに考えておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

Q 市民

私は今20歳で学生なので、学生目線での意見、提案をします。

私自身小中を流山市の公立学校で過ごしまして、その中で、こういうのがあったらいいなと思ったのが、小中高大で流山の市政について考えるプログラムを組み込むのはどうかなと思いました。

すでにあったら申し訳ないんですけど、教育をご家庭とかに持ち帰って、家族で考えることで、今後も流山市が住みやすくなったらいいなと思います。4人家族なんですけど、4分の3が都内で昼間過ごしている状況で、中でも弟が都内の私立の高校に通っているため、学費を払わなきゃいけない、都内の学生は私立でも払わなくていいんですけど、千葉に住んでいるので払わなきゃいけないという状況があって、厳しい言葉で言うと、今流山市に住むメリットがなくなってしまっている状況になっているので、そういったことから、もっと小さいときから、今後流山市はどうしたらもっと長く住もうかなと思える街になるかというのを家族で考える時間があればいいなと思いました。

A 学校教育部長

ご意見ありがとうございます。

お金のところはなかなか難しいところだと思うんですが、この小中高大での市政について考えるプログラムというのは貴重な意見だと思います。子ども家庭部の主催で、こども会議というのをやりました。そこに市長も出ていただいて、子どもから直接話を聞くという機会なんかも作っているところで、今度議会の方でこども議会をやることになっております。

このことも含めて、小さい頃から、自分たちの市をさらに良くしていこうとかということを考えていくということは非常に大事なことだと思いますので、具体的なプログラムが今あるわけではないんですけども、今後、学校とも連携を取りながら、この意見が生かされていけたらなと思っております。

A 子ども家庭部長

来年度から市の方でも、高校生世代、大学生世代の方々に、ある程度特定の方ですけれども、手を挙げて集まっていただいて、今後流山市をどういうまちにしていっていいとか、課題ですとか今後の方向性とか、そういったものを話し合ってもらえるような、いわゆるまち

づくり隊といったものを組織しようかと思っています。

今の千葉市なんかでもかなり活発に行われているんですけども、そういったものを流山の方でも取り入れさせていただいて、小学生中学生がそのこども会議というのを設けて、高校生、大学生世代にはそういったまちづくりを考えてもらうような場を設けようかというふうに思っておりますので、ぜひそういったものにも、参加していただきたいというふうに思っております。よろしくお願いします。

以上